

さけ・ます資源増大対策調査事業（サクラマス産卵床調査）

静 一徳

目 的

サクラマス野生魚の資源評価のため、河川での産卵状況を把握する。

材料と方法

2015年10月7日に、老部川本流の砂防堰堤から中ノ又沢合流点までの4.4km区間と、中ノ又沢の北ノ又沢下流部にある堰堤から本流合流点までの2.0km区間にて、調査員2名でサクラマス産卵床を目視調査した（図1）。地図上に産卵床の位置を記録し、産卵床のあった場所の河床型、河川幅、水深、岸からの距離を計測した。また、調査中に見つかったサケ、サクラマスの生体、死体の位置と個体数を記録した。

結果と考察

確認した産卵床は、本流31床、中ノ又沢5床の計36床であった（図1、表1）。産卵床密度（産卵床数/100m）は本流0.70床/100m、中ノ又沢0.25床/100mで、本流のほうが高かった。産卵床は主に淵の中部や下流部に形成されていた。本流では水深11cm～30cm、川幅4m～9m、中ノ又沢では水深10cm～20cm、川幅4m～5mの地点で産卵床が多かった（図2）。調査中に確認したサクラマスの生体、死体を合わせた数は、本流で23尾、中ノ又沢で5尾、計28尾であった（表2）。

老部川では老部川内水面漁業協同組合がヤナと曳網にてサクラマス親魚を捕獲している。産卵床調査をした10月7日までの合計捕獲数は178尾、10月8日の親魚捕獲終了時の合計捕獲数は180尾であった。10月8日に捕獲された2尾が、10月7日の本調査で確認された28尾に含まれていたかは不明であるものの、2015年の老部川への全遡上数は178尾 + 28尾 = 206尾以上であったことになる。このことから、2015年は全遡上数の少なくとも1割は取り残しており（206～208尾中、28～30尾）、それらが河川にて自然再生産を行っていたと推察された。

謝 辞

調査にご協力いただいた老部川内水面漁業協同組合に感謝します。

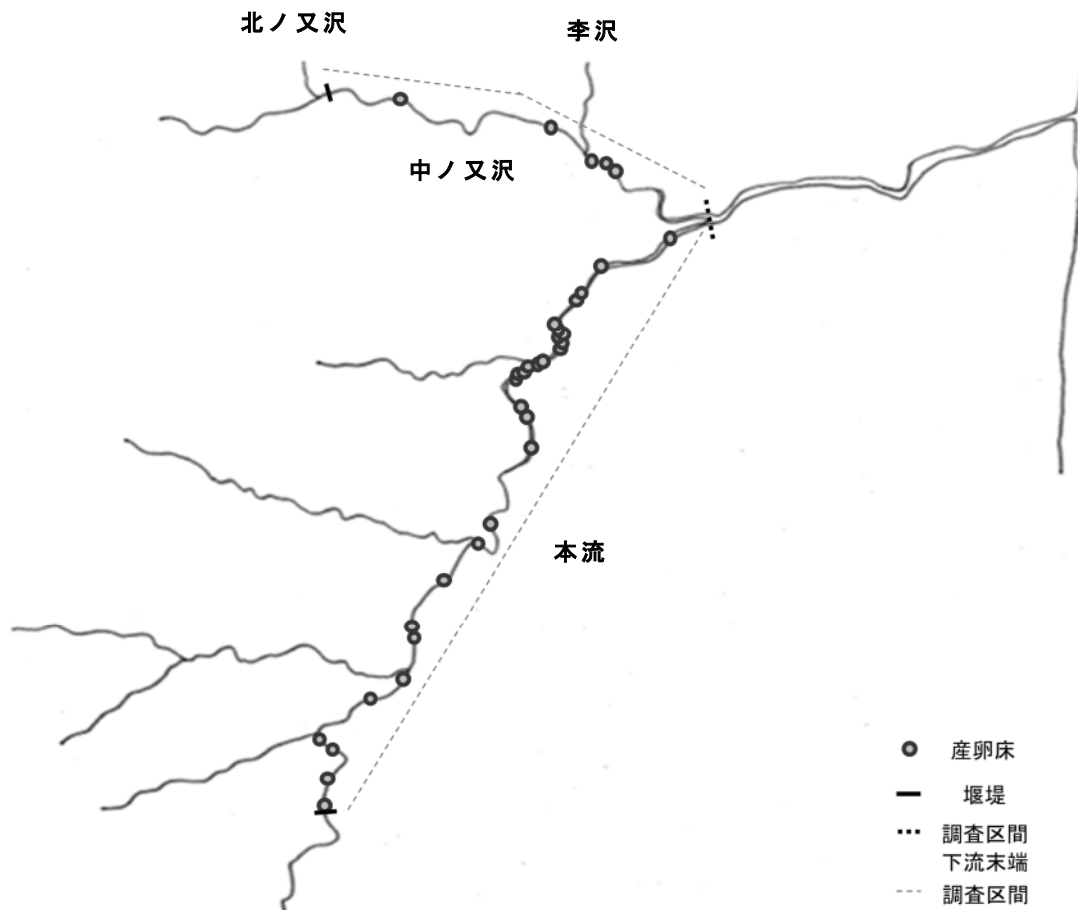


図 1. 老部川におけるサクラマス産卵床調査区間と産卵床分布状況 (2015 年)

表 1. サクラマス産卵床調査結果

調査区間 (km)		本流	中ノ又沢
調査区間 (km)		4.4	2.0
河床型	位置	産卵床数	産卵床数
淵	上流端部	2	0
	中部	16	1
	下流端部	12	4
平瀬	下流端部	1	0
合計		31	5
産卵床密度 (床/100m)		0.70	0.25

表 2. サクラマスの生体、死体数 (尾)

	生体	死体	計
本流	11	12	23
中ノ又沢	3	2	5

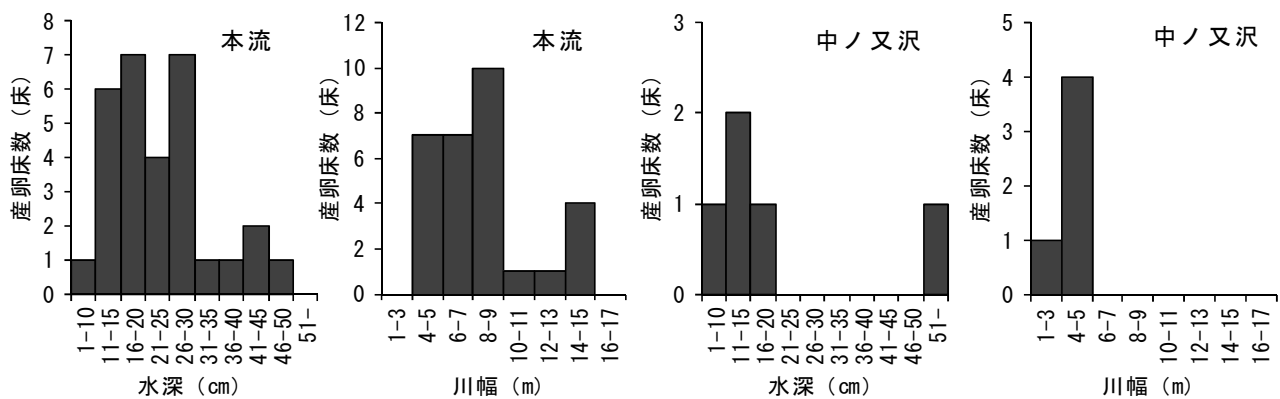


図 2. 老部川におけるサクラマス産卵床地点の水深と川幅